



厚木市緑ヶ丘地区と再度の交流会開催

大上地区社協が管理運営している深谷大上ふれあいの家の“火曜喫茶店”で、9月16日(火)午前10時に厚木市緑ヶ丘地区地域福祉推進委員会の池田委員長以下7名の役員が来店され、大上地区社協の市ノ澤会長、木村副会長、岩月理事・企画部長・火曜喫茶店長や他の役員、会員と一般の来店者を加えて14名が出席して交流会が行なわれた。



深谷大上ふれあいの家での交流会

特に厚木市の緑ヶ丘地区は高齢化が40%台に達しており、高齢者の孤独化を防ぐためにも地域の皆さんが集まれるサロンを立ち上げるために同委員会は、その準備を現在進めています。今回は大上地区社協との交流会が3回目となり、火曜喫茶店の運営ノウハウを学びたいという意欲に満ちた役員の方々は、岩月理事の説明に高い関心をもって熱心に聞き入り、そして質問をするなど活発な意見交換が行なわれました。

また、9月30日(火)には岩月理事が同地区の準備会議に出席して、私どもの火曜喫茶店について再度説明しました。

火曜喫茶店の催しに北の台小の3年生が見学

10月7日(火)の火曜喫茶店では、本年も「戦争と当時の生活展」を開催して地元の皆さんと共に北の台小学校3年生全員の72名が地域を知る授業の一環としてクラスごとの3班に分かれ、担任の先生に引率されて見学に来店した。



及川さんの説明に聞き入る3年生

当日は、岩月理事・店長と説明役に4氏が担当。まず87歳の及川勝郎さんによる出兵して3年間、極寒の地のシベリヤで捕虜となって零下40度の中での抑留生活を体験した話。終戦直後で食べ物も着る物もない当時の綾瀬での暮らしぶりを92歳の見上ミヤさんが語る一方、広島で10km先に原爆投下があった時は小学校6年生で、勉強したいが農作業の手伝いばかりしていたと語る及川さんの妻の典子さん。そして、この戦争で4歳の時に父親をビルマで亡くされ、父親の顔も知らないという山下英俊さんが、戦争は絶対にやっばいけいと涙ながらの語らいに児童たちは真剣に聞き入っていました。また、来店された地域の皆さんも児童と共に説明を聞き、昭和の思い出の展示物を懐かしそうに見学していました。

北の台中学校PTAの“朝の声かけ運動”に協力

北の台中学校PTAの校外生活委員会(永山和代委員長)は、例年秋の“朝の声かけ運動”を10月8日(水)・9日(木)の2日間行ないました。両日共に通学路のダイエー前、キグナス前、同校の正門と裏門の校区内の4カ所に、朝の7:50~8:35に同校の先生、PTA役員、生徒会役員と大上地区社協、そして大上・蓼川・寺尾綾北の青少年健全育成会の協力するメンバーが参加して、登校する同校生徒の303名に“おはよう”と声をかけていました。大上地区社協からは、市ノ澤会長以下10名の会員が参加しました。



北の台中学の裏門での朝の声かけ